

2026年3月24日

各 位

会 社 名 竹 本 容 器 株 式 会 社
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 竹 本 笑 子
(コード番号：4248 東証スタンダード市場)
問 い 合 わ せ 先 執 行 役 員 経 営 企 画 室 長 戸 田 琢 哉
(TEL. 03-3845-6107)

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について（アップデート）

当社は、2025年3月21日に公表いたしました「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」の内容につきまして、改めて現状を分析・評価し、改善に向けた取り組み方針についてアップデートいたしましたので、お知らせいたします。

なお、詳細につきましては、添付資料「資本コストや株価を意識した経営の実現へ向けた対応について（アップデート）」をご覧ください。

以 上

「資本コストや株価を意識した
経営の実現へ向けた対応について（アップデート）」

資本コストや株価を意識した経営の実現へ向けた対応

国内及び海外事業の現状分析結果に基づき、収益性の改善の取組みを継続すると共に、株主・投資家との対話についても、順次進めて参ります

I. 現状分析・評価

- 資本コスト算定の根拠
- 資本コスト及びROICの推移と要因分析
- 地域別ポートフォリオカテゴリー
- ROICツリー

II. 取組みの実施・開示

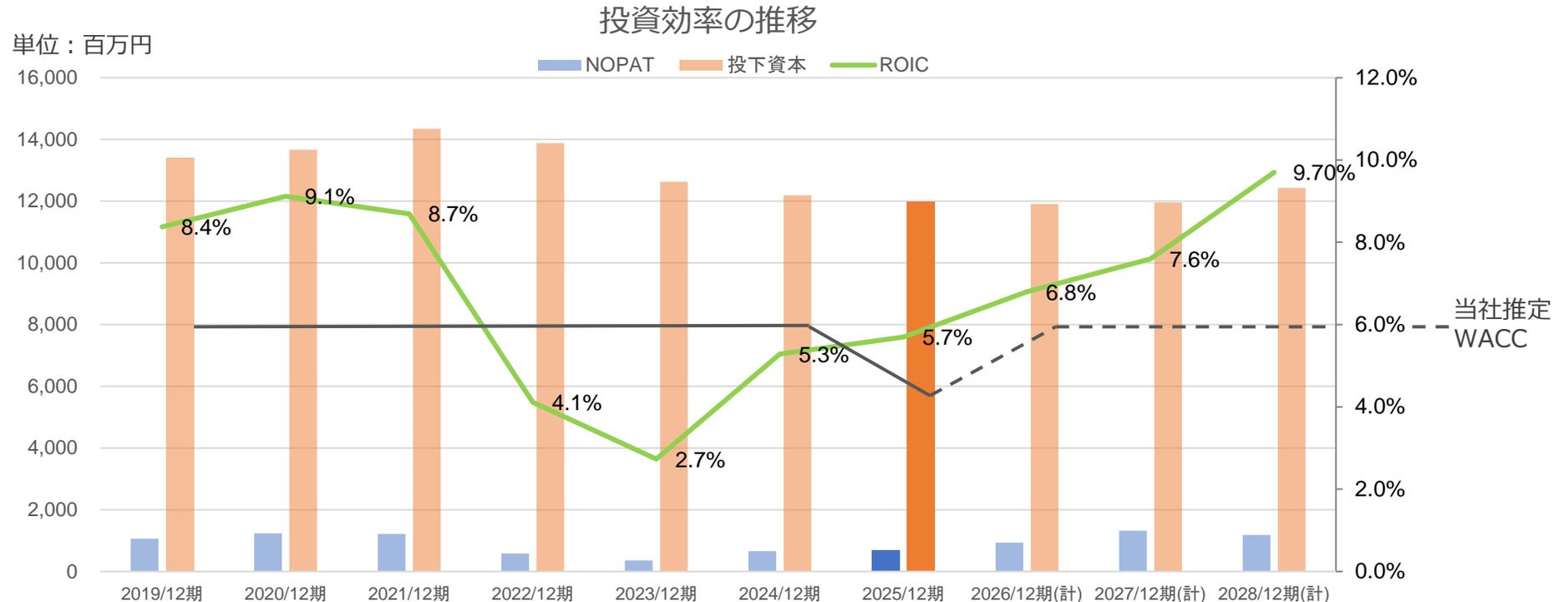
- 日本: サステナビリティへの対応、生産性向上
- 中国: 顧客開拓と生産の自動化推進
- インド: 生産能力向上と販路拡大
- 共通: 人材採用・育成に注力

III. 株主・投資家と対話

- 株主還元の状況
- キャピタルアロケーション
- 投資家ミーティングの頻度向上
- 投資家の意見収集と対応

資本コストや株価を意識した経営の実現へ向けた対応

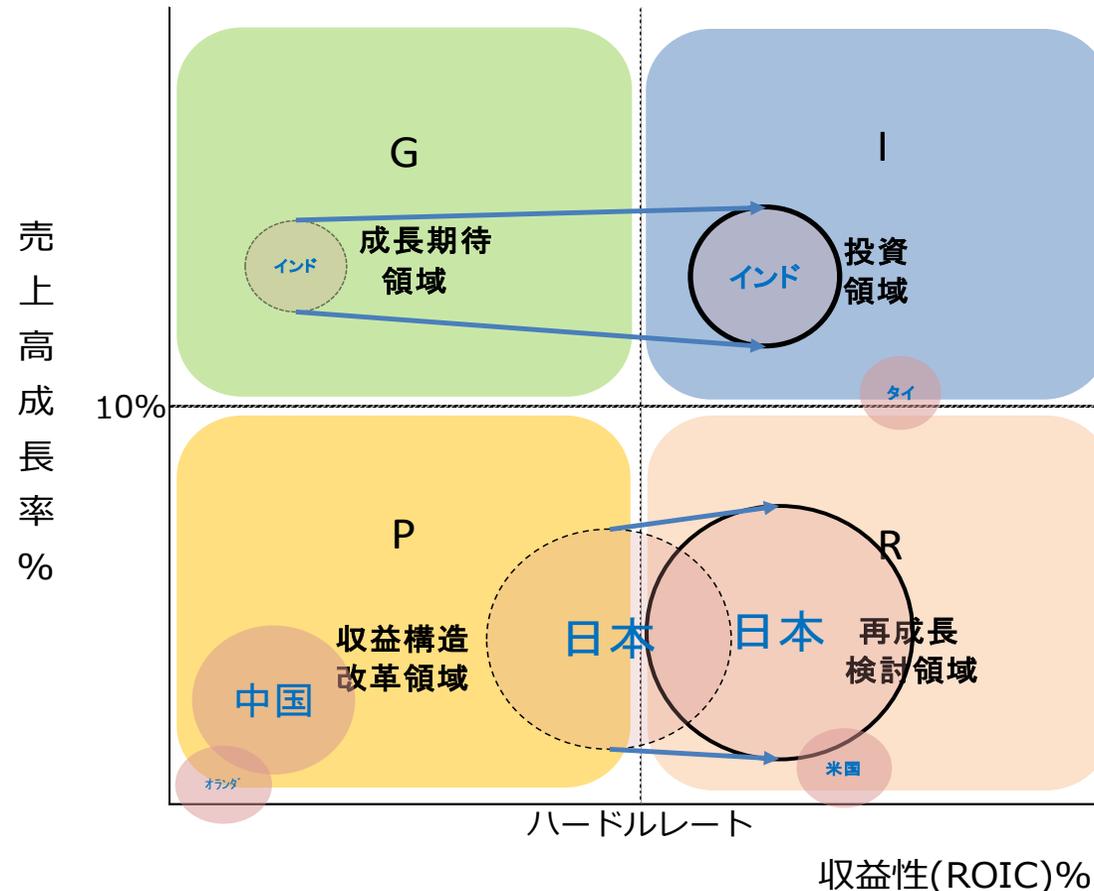
- 当社では、毎年CAPMを用いて資本コストを算出しています。また、事業運営や投資採算については、このハードルレートを意識した経営判断を行っています
- 従来の算出結果によれば、Indexとの連動性を示すβ値が低下したことで直近の2025年末時点の株主資本コストは5%弱の水準、WACCが4%前後の水準に低下していると認識しています
- ROICをヒストリカルにみると、2021年以前はハードルレートを上回って推移していました2022~23年に下降した後、収益改善の取り組みを継続的に実施していることにより、2024年から収益性が改善しWACCを上回る水準まで回復している状況です



資本コストや株価を意識した経営の実現へ向けた対応

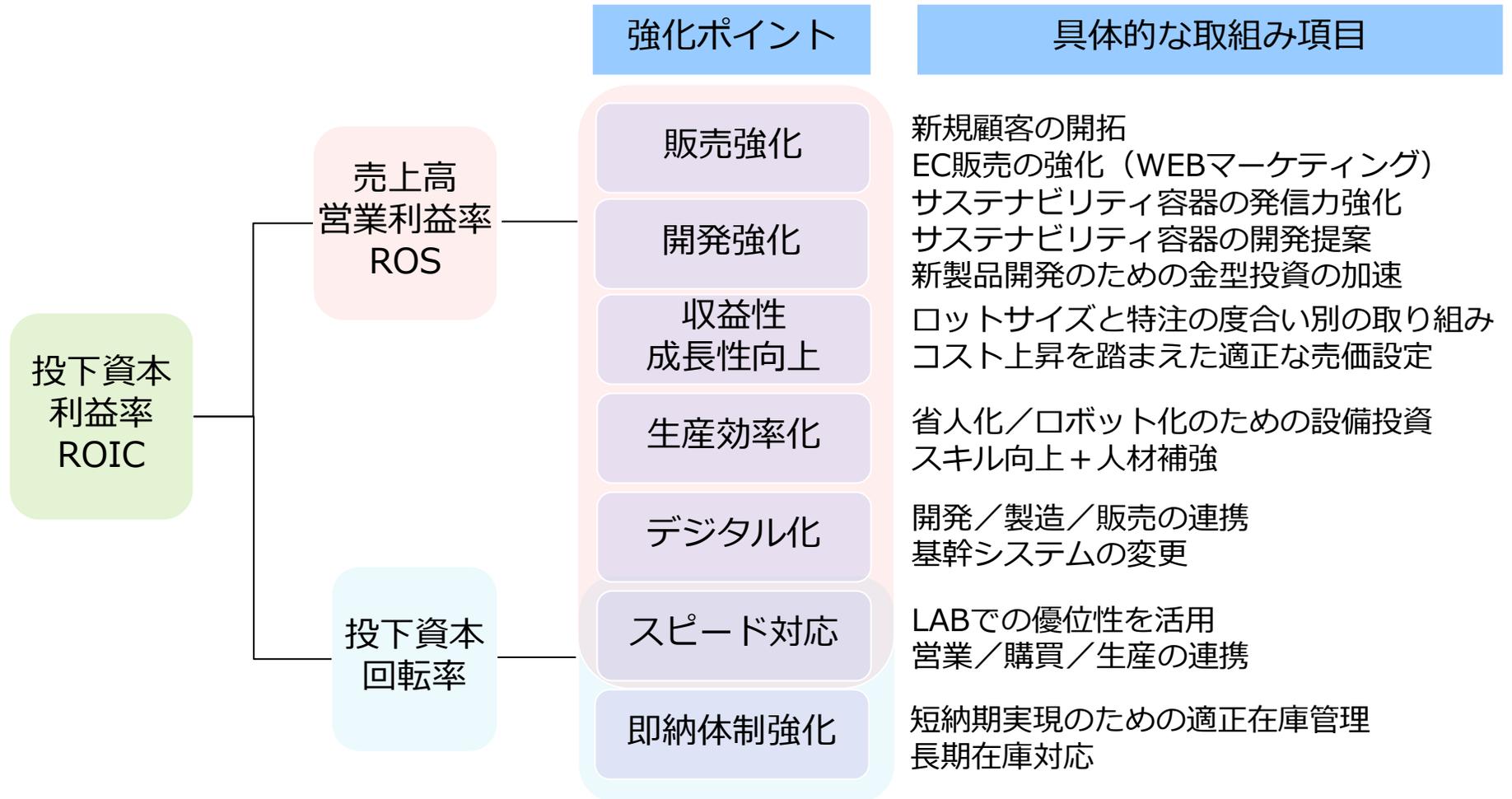
- 当社では、売上高成長率と収益性（ROIC）を指標として地域別事業を4つのカテゴリーに分類し、各地域の取り組むべき領域を明確にしています
- 日本事業は収益性を改善し再成長検討領域へ、インド事業はさらなる成長を見込んでおり、成長期待領域から投資領域へ移行していく予定です

地域別ポートフォリオカテゴリー



資本コストや株価を意識した経営の実現へ向けた対応

当社では、ROICを利益率と回転率に細分化し、強化ポイントとリンクした取組みを実施しています



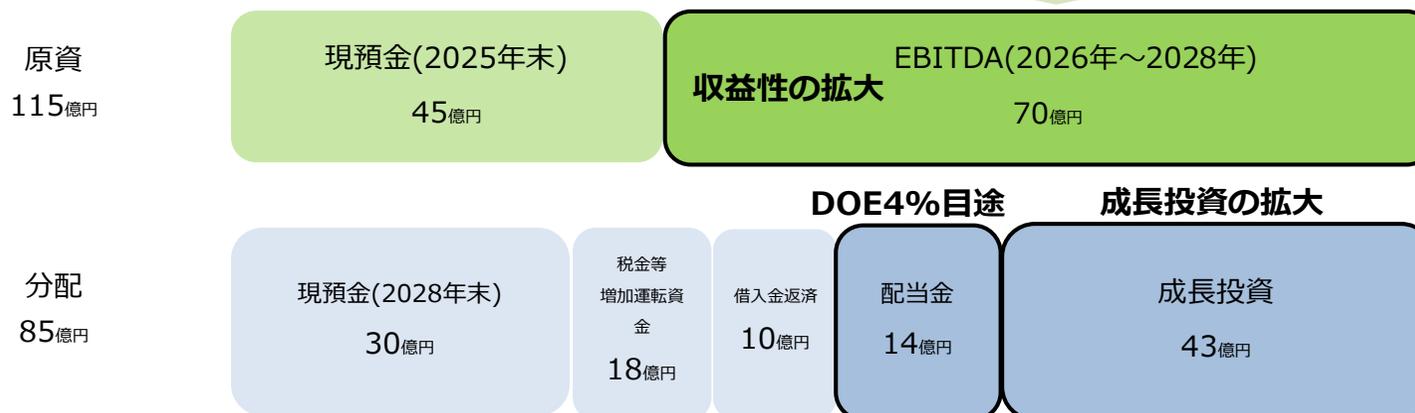
資本コストや株価を意識した経営の実現へ向けた対応

過去3年の実績を踏まえ本中期経営計画におけるキャピタルアロケーションを策定しました
 成長投資の拡大により、過去3年間を上回るEBITDA 70億円の創出を目指すとともに、
 DOE 4%を目処とする株主還元も継続して実施してまいります

2023年～2025年



中計期間(2026年～2028年)



すべては “ Standout ” な
パッケージングソリューション
創造のために